

～巻頭言～

イースター、おめでとうございます

イエスは重ねて言われた。『あなた方に平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。』（ヨハネ20:21）

水仙が香り、チューリップが並び、桜が開花して、2025年度が始まりました。新学年に進級するだけでなく、新しい学校や職場、新しい地域や住まいなど大きな変化を迎えて、桜の下で記念写真を撮られた方も多いことでしょう。春は一斉に草花が芽吹いてくる喜びの季節であると同時に、朧月夜や春雨など霞がかった茫漠とした不安な季節でもあります。喜びと期待と共に、先の見えない不安と怖れの感情が交錯します。

しかし、イエス様が私達に一番望まれ、繰り返し命じられているのは、主に信頼して心安らかに生きることです。この平安を与える為に十字架上で私達の赦しを神に乞うて下さったイエス様が、三日目に罪と死を打ち破って復活して下さった出来事を記念し、感謝するのがイースターです。そして希望も未来も見失って怖れ、鍵をかけ閉じこもっている弟子たちに、「平和があるように」と繰り返し、神との関係ゆえに、絶対に保護された状態にあることを告げて下さったのです。

この喜びの知らせを信じて従い、心配や不安から解放され、周りに平和を広げていける存在として、私達も遣わされています。喜び安心して春のスタートを切っていきましょう！

牧師 大月 康子



第78回日本ナザレン教団年会に参加して(於:大阪)

3月7日(金)から9日(日)までの三日間、始めから終わりまで温かく有益な年会となり、皆様のお祈りに感謝しています。開会礼拝において「多くの労と歴史の中で形作られてきたナザレン教団の教職として信徒として、神に仕えていく。私達は自分を正しい者(自分を神とすること)とはしない。年会を通じて教団を少しずつ前進させる」と示され、心新たに臨みました。

(裏面に続く)



教団理事長 土肥師

世界祈禱日 2025 を終えて

今年の式文はクック諸島からのメッセージでした。クック諸島という島は名前も位置も知らない国でしたが、今回この国を理解することができました。クック諸島は、太平洋の200万平方キロの内に15の島が点在し、その内12の島に人が住んでいます。

15歳の少女の声

『神様はわたしのことを知っています。そしてあなたのことも。』

そしてわたしたちが経験するすべてのことを知っているのです。』

本当にそうです。クック諸島の女性や子供達は、どんなにつらいことがあっても、神様が必ず助けてくださると信じてがんばっています。英語教育が勢いをましてきたため、マリオ語(母国語)の価値が下がりました。マリオ語を話しているところを学校の先生に見つかり、罰として「私はマリオ語を話しました」という札を首から下げさせられたり、トゲの多い草をなくなるまで草むしりさせられました。神様は、それぞれ独自の「ことば」を与えて下さいました。ですから自由に使っているのです。クック諸島の人々は、言葉も生活もきびしい中にあることを感じました。しかし、人々はいつも笑顔で生活していくことを神様にちかいました。神様オンリーなんです。

信仰について、私は大きな恵みをいただきました。これからもクック諸島のために祈りを続けていこうと思います。

※3月7日(金)は、担当が博愛会教会、会場はナザレン教会で開催。11教会から52人の参加で、献金総額は5万円でした。(H.K.姉)



ジェフリー スティルゴ師証し



3月30日(日)は大月牧師が今治教会でご奉仕のため、ジェフリー スティルゴ師が証して下さいました。(通訳:M.F.兄) 旧約聖書・イザヤ書46:4から「I AM GOD, ALWAYS WITH YOU」と題して、「①神は私たちとのつながりを望まれるお方。②神は私たちの苦しみの中を歩んでくださるお方。③神は私たちに赦しと守りを約束して下さるお方。」とご自身の体験から証して下さいました。また、スクリーンでこの2年間のインドネシアと岡山でのお働き、学び、交わりをご紹介下さいました。この春から、岡山大学大学院博士課程で学ばれるS師とご一家のために祈りましょう。

第78回日本ナザレン教団年會に参加して

(表面より続き)

ナザレンフォーラムは、組織改編について自由な多方面の発言の場となりました。また按手礼式や各式、閉会礼拝において心に残るメッセージを頂きましたが、振り返ると根底はどこか共通していました。“わかっているという思い込みや自分の正しさから離れ、自分を捨てて、主のすぐ後ろにぴったりついていく、キリストに倣う弟子となり、つくる”という、信仰の筋が見えました。誇らしく感謝して戻ることができています。(大月 康子)

ミニ寄稿

旅立ちの春になりました。卒業、入学、転勤、就職、退職など、節目を迎える方もたくさんいらっしゃいます。直接、自分のことではないにしても、家族や親しい友人など、身近な方に動きがあると、やはり様々な思いが巡ります。私の周囲でも長く来て下さっていたお客様が、毎年何人か転勤や卒業で「岡山に戻ることがあったら、また来ます」とお別れを告げて行かれます。そしてお別れする方だけではなく新しい出会いもありますし、戻ってくる方もいます。すべては神様のお取り計らい。示されるままに、今日も私たちはここにいます。

(I.S.姉)

